

大切に育てられた淡墨桜の下でお花見はいかが？



「十七八会」が平成20年に桜の育成・普及などに功績のあった団体として、(財)日本さくらの会から「さくら功労者」として表彰された記念碑が木のそばにある。

▲大山緑地内の心字池の北側にある3本の木。淡い色合いがソメイヨシノとは違う趣がある。

“撮っておき” の たかはま

【第31回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

うすすみ 淡墨桜 (大山緑地)

桜の咲くこの季節、大山緑地を散策して大きな淡墨桜に気づいた方も多いのではないだろうか。この桜は、昭和17年・18年生まれの高浜小学校同年者約100人が集う「十七八(となや)会」の皆さんが、昭和63年に岐阜県本巣市(旧本巣郡根尾村)にある国の天然記念物の淡墨桜の種から育てた苗木を、縁あって刈谷の同年グループの方からプレゼントされ、植樹したものだ。

植樹を行った森泰浩さん(春日町)は次のように語る。「植樹してから7~8年花が咲かなくて、根尾村まで育て方を聞きに行ったりしたんだが、10年目にやっと花が咲いて嬉しかったものだよ。10年くらいしないと花が咲かない種類らしい。年3回は肥料をやり周辺の清掃活動もしているが、毎年清掃のあとで仲間と花見をするのが一番の楽しみだよ。」

神谷悦司さん(二池町)は、「傾斜のあるところだから土が流れないように囲いをしたり、世話は大変だけど、大きく育ててくれて本当によかった。実は、4年前にも『十七八会』で、古希の記念に馬場の西側に3本植樹したんだ。新しい苗木が花をつけるのを楽しみにしているよ。」と語った。

つぼみは薄いピンク、満開は白、散るころは淡い墨色に花の色が変わるこの桜。作家・宇野千代がよみがえらせた有名な淡墨桜の子孫と知ると驚く方も多だろう。ソメイヨシノよりも開花が早いいため、見たい方はお早目に。

LELA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!

広報 たかはま

早期配布にご協力ください。

編集・発行／高浜市役所総合政策グループ
〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110
<http://www.city.takahama.lg.jp/>
電子メール info@city.takahama.lg.jp